



縄文時代晩期初頭の土器



縄文時代晩期前葉～中葉の土器



縄文時代晩期後葉の土器



弥生時代前期の土器

剥片素材の石器 (左上から石鏃、さつき、せきかく、ほくへん)



礫素材の石器 (左下から打製石斧、磨製石斧、れつき)



礫素材の石器 (左上からすりいし、たいいし、たたきいし、磨石)

19C 区谷地形 (015NR) の出土遺物

土器は全て破片で出土しており、完形の土器は出土していません。また、各時期の土器いずれにもススがついたり付着するものが多く、煮炊きで使用されたものが捨てられていました。

石器は、木の実などを磨り潰す道具の磨石や台石といった堅果類など植物質食料の加工に用いられる石器がまとめて出土しています。

以上のような遺物の出土状況から、谷付近では縄文時代後期後半から弥生時代前期(約3,500年前～約2,500年前)にいたるまで、煮炊きの作業を含むドングリなど堅果類の加工が行われていたと考えられます。安定した湧水があった環境の谷は、時代を経ても継続的に利用された場所です。

このことは、19C 区に比較的近い場所にこれらの道具を使っていた人々の住む集落があったことを示していると考えます。



令和元年度 石原遺跡地元説明会資料



編集
配布

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
HP <http://www.maibun.com>

調査支援 株式会社 イビソク

〒503-0854 岐阜県大垣市築捨町3丁目102番地

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24
電話 (0567) 67-4163 【調査課】

Twitter https://twitter.com/aichi_maibun
Facebook <https://www.facebook.com/maibunaiichi>

電話 (0584) 89-5507



谷地形 (015NR)

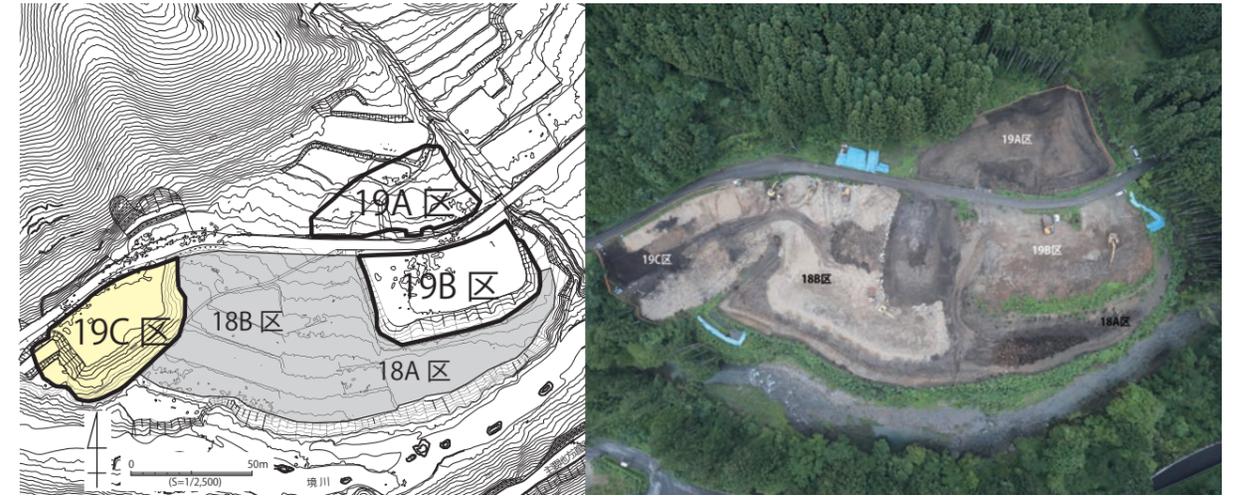


左上 黒色土検出
(南から)
左下 配石墓*1
040SK 検出(東から)
右上 縄文時代晩期
の遺物出土状況
右下 谷地形のテラス
状の平場*2



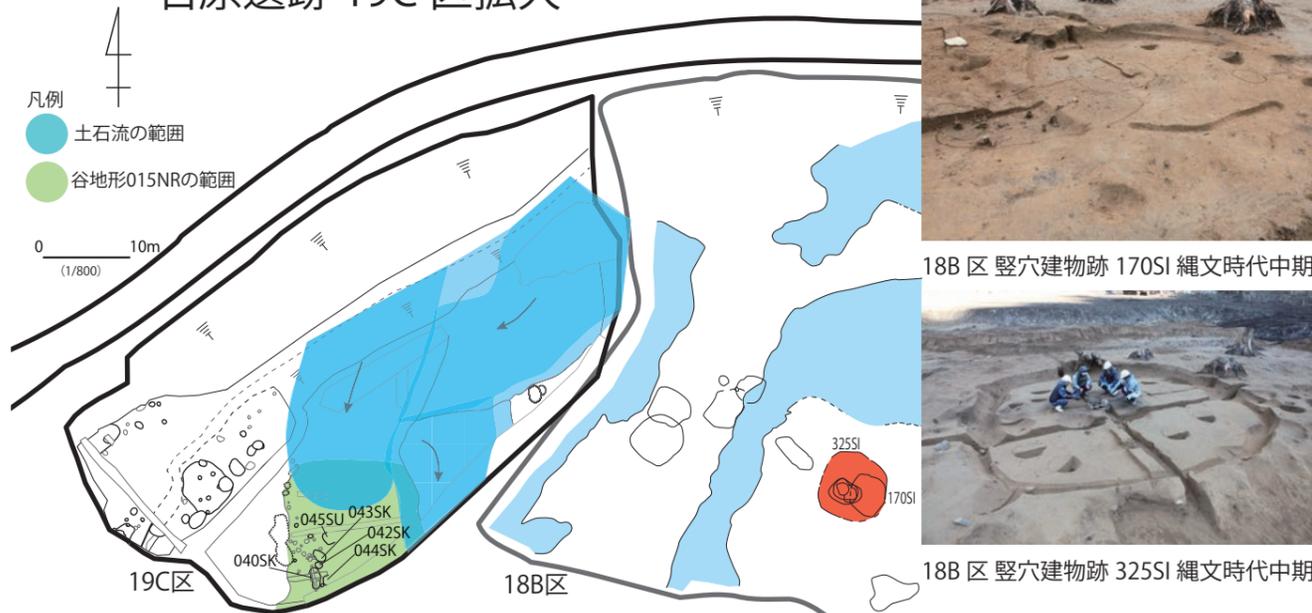
*1 配石墓は、土坑の内部
に石を立てて配置したもの
です。また、骨片も出土し
ているため、墓だと考えら
れます。
*2 テラス状の平場は、当
時の人々が水場として利用
しやすいように平場に土地
改良をしていたと考えられ
ます。

石原遺跡全体図



19C区全景(東から)

石原遺跡 19C区拡大



18B区 竪穴建物跡 170SI 縄文時代中期



18B区 竪穴建物跡 325SI 縄文時代中期



集石遺構 044SK



集石遺構 042SK・043SK



集石遺構 045SU

これまでの調査成果

昨年度は石罫炉をもつ縄文時代中期の竪穴建物跡(18B区)や縄文時代後期から晩期の土器・石器を含む土坑(18A区)が見つかりました。竪穴建物跡は重複があり、改築や復旧をして同じ場所に繰り返し住む縄文人の暮らしぶりが判ってきました。

今年度の調査成果

石原遺跡はその字名「石原」から想像されるように、幾度もの土石流に覆われてきました。19C区では土石流の影響を免れた部分(谷地形015NR)があり、縄文時代晩期を中心とする大量の土器・石器が出土しました。

19C区の谷地形(015NR)について

19C区の谷地形(015NR)では黒色土が堆積していて、その黒色土から大量の土器や石器が出土しています。また、煮炊き等で火を焚いていたと考えられる集石遺構(042SK・043SK・044SK・045SU)や土器が使用時のまま埋められていたと思われる場所(底部のみ残存)が黒色土の中から検出されました。さらに、黒色土の遺物包含層を掘り込んで構築された配石墓(040SK)も1基検出されました。

土石流が遺跡のあちこちに走っており、谷地形015NR以外の場所では遺構や遺物が少なく、竪穴建物跡なども確認できませんでした。また、調査区北側の段になっている部分は、後世の耕作に伴う整地が行われていたため、遺構や遺物はあまり残っていませんでした。

